第14回グッドライフアワードにおける環境大臣賞の取組（10件）

（別添１）

①最優秀賞 汚れた「水の都・三島」の水辺自然環境を地域協働で再生 －「水と緑の環境保全活用ネットワーク」 を構築－

【概要】
汚れていた源兵衛川を、市民・NPO・行政・企業の「地域協働」により清流へ再生。ミシマバイカモやホタルが戻り、川の中を歩ける水の散歩道など市内75か所に実践地を整備した。年間780万人が訪れるまちの賑わいや空き店舗の減少にも貢献。環境人材の育成、街中カフェの運営、企業約200社との連携を通じ、自然再生と地域経済を両立する持続的な仕組みを構築している。

（実施主体：特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島　場所：静岡県）



②優秀賞 渋谷発、都市の暮らしを耕すアーバンファーミング・グリーンインフラの社会実装

【概要】
渋谷・原宿・恵比寿を中心に、都市農を「都市型グリーンインフラ」として実装。約900名のボランティアと活動し、ふれあい植物センターでは年間100回以上のイベントを行い、来園者を6倍に増やした。生ごみやコーヒーかすの堆肥化、渋谷ルッコラ・渋谷茶・渋谷東ビール等の商品開発、不登校児の受入れも実施。都市生活者を地域の食と種を受け継ぐ担い手へ変える取組を他都市にも展開している。

（実施主体：特定非営利活動法人 アーバンファーマーズクラブ　場所：東京都）



③優秀賞 茅がつなぐ里山と人の循環

【概要】
筑波山麓の茅葺き文化を、茅場・人材・技術の循環によって継承。茅刈り、葺替え支援、古茅の再利用や農地還元を通じ、草原環境の維持、生物多様性保全、地域資源の循環利用を進めている。22年間で延べ2,484人が参加し、189軒の茅葺き建築の維持を支援。親子参加や学校連携による環境教育も展開し、地域の共同作業「結」を現代的に再構築している。

（実施主体：特定非営利活動法人 筑波山麓かやぶき文化保存会　場所：茨城県）



④優秀賞 森林課題解決と地域循環サイクルを目指す共創プロジェクト「蓼科カラマツ」

【概要】
地域の林業事業者と連携し、カラマツを「伐る・加工する・届ける・また育てる」循環を構築。森林経営計画に基づく保全間伐とJ-クレジット認証を進め、幹は建材・家具、枝葉はアロマや茶、端材はバイオマス燃料として余すことなく活用する。TENOHA蓼科を環境発信と地域連携の拠点とし、商品開発、環境学習、観光を組み合わせ、自然資本の回復と地域経済の両立を目指している。

（実施主体：東急不動産株式会社／東急リゾートタウン蓼科　場所：長野県）



第14回グッドライフアワードにおける環境大臣賞の取組（10件）

（別添１）

⑤企業部門 おおはし里の杜
～ジャンクションのトンネル換気所屋上で育む“生きもの中心”の地域共生モデル～

【概要】
大橋ジャンクションのトンネル換気所屋上に、目黒川周辺の原風景をモデルとした自然再生緑地を整備。地域性種苗を用い、希少種を含む多様な動植物の生息・生育空間を創出した。整備後15年以上、モニタリングに基づく順応的管理を継続し、近隣小学生の稲作体験や一般公開には累計15,000名以上が来場。都市部の生物多様性保全、環境教育、地域共生を一体で実践するグリーンインフラのモデルである。

（実施主体：首都高速道路株式会社　場所：東京都）



⑥学校部門 学校生活のカーボンニュートラルを探究！アジアにおけるゼロカーボンスクール教育の普及啓発

【概要】
学校生活のCO_2吸収量・排出量を可視化し、緑化や省エネを通じてカーボンニュートラルを探究する教育を展開。2017年から日本とアジア5か国・地域の延べ149校、4,000名超の児童生徒を支援した。CO_2実測データを共通言語に、デジタル教材、高校生による動画制作、学校間交流を実施。自治体と教員研修やモデル校訪問も進め、地域脱炭素を担う環境人材育成のモデルを国内外に広げている。

（実施主体：学校法人菊武学園名古屋産業大学環境経営研究所　場所：愛知県）



⑦自治体部門 森・土・水がつなぐ「プラネタリーヘルス都市・臼杵」の挑戦
～ユネスコが認めた、森里川海と暮らしを健やかにする世界水準のまちづくり～

【概要】
「土づくりセンター」を拠点に、森・土・水がめぐる自然循環を守り、有機農業と伝統的な醸造産業を育むまちづくりを推進。約2.5万トンの堆肥製造と約1,218ha相当の土壌改良、有機給食、地域体験講座、エシカル商品「うすきの地もの」の開発を進めている。市民・産学官・若者が連携し、自然環境、地域経済、食文化、教育を一体化。ユネスコ食文化創造都市として地域固有の暮らしと文化を次世代へ継承する。

（実施主体：大分県臼杵市　場所：大分県）



第14回グッドライフアワードにおける環境大臣賞の取組（10件）

（別添１）

⑧地域コミュニティ部門 森と山菜の恵みで、限界集落を未来につなぐ －多世代参加の地域福祉文化モデル

【概要】
人口約350人の梅内聚落で、住民主体による1,850haの森林管理、薪の駅、山菜加工、森林教育を展開。高齢者、女性、若者が役割を担い、山菜文化や里山の恵みを循環させている。15年の活動で行政・学校・大学・NPOとの連携を広げ、関係人口は579人に増加。地域通貨も活用し、楽しみながら参加できる仕組みを整え、「消える集落」から多世代が生きがいを持つ「続く集落」への転換を目指している。

（実施主体：認可地縁団体 梅内聚落　場所：秋田県）



⑨地域コミュニティ部門 魅力ある浜づくりを目指す『深江ブループロジェクト』

【概要】
漁業者と地元小学生が17年間、アマモ場と干潟の再生に取り組む。アサリ漁場の耕うん、食害生物の駆除、アサリ放流に加え、除去したアオサを堆肥化して学校菜園で活用し、海と陸の資源循環を学ぶ機会をつくっている。大学生や消防団も参加し、海洋学習、世代間交流、海難救助訓練を実施。地域の知恵と専門家の助言を生かし、海の環境再生と次世代育成、浜のにぎわいづくりを結び付けている。

（実施主体：深江ブループロジェクト　場所：長崎県）



⑩個人部門 牛が歩けば、山が変わる。～山地酪農による里山再生と生物多様性～

【概要】
30年以上利用されていなかった8.5haの山を開拓し、ジャージー牛6頭を通年放牧。外来牧草を使わず、牛が地域の植生を食べ、歩き、排泄する営みによって草地を維持し、野芝を含む多様な植物や生き物が育つ環境へ変化させた。乳製品の製造・販売とカフェ運営まで一体化し、酪農という生業そのものを持続的な山の管理に結び付ける。来訪者には矢作川源流域の山の価値と管理方法を伝えている。

（実施主体：ペアツリーファーム　場所：長野県）

